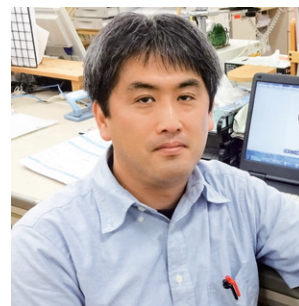
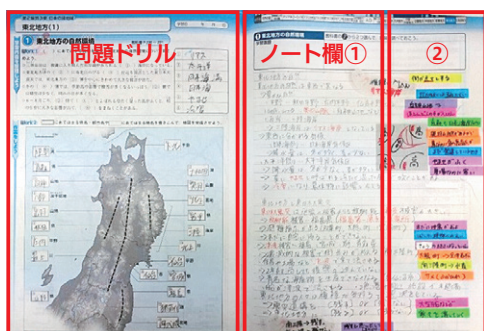


## “「研究ノート」を活用した”新しい社会科の授業

淡路市立津名中学校 右田智治



### Q.1 「研究ノート」をどのように活用していますか？

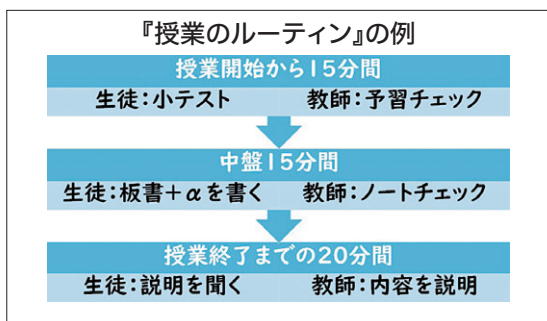


▲「研究ノート」の活用例

**A** 私の社会科授業では、見開き左ページにある「問題ドリル」を授業前の予習として取り組む1回目の学習、見開き右ページにある「ノート欄①」に板書を書き写す2回目の学習、さらに私が説明した授業内容を「ノート欄②」に書き込む3回目の学習、という具合に1時間分を3回に分けて学習することを心がけています。この授業スタイルには、問題とノートが一体化している「研究ノート」が必要不可欠であり、私の社会科授業を根幹から支えているといっても過言ではありません。

### Q.2 「研究ノート」を活用した授業をもう少し具体的に教えていただけますか？

**A** 3回学習することを心がけた授業なので、授業1時間の流れを無駄なく合理的に行う必要があります。生徒が常に学習しやすい『授業のルーティン』を作ることが重要になります。現在は下図のような授業を展



開しており、反転学習を取り入れています。以前は学習内容を解説してから板書を写していましたが、生徒の学習のしやすさを考えて現在の形になりました。手応えとしては、反転学習の方が学習しやすいように感じています。また、今後の『授業のルーティン』で重要になるのは、ICT機器を使うのが前提になっているということです。コロナ禍で予定が早まったGIGAスクール構想の実施に伴い、多くの教師が準備する期間もなく戸惑っています。しかし、教育の大転換期に突入した今、ICT機器を使う前提での『授業のルーティン』を作るといった発想の転換が多くの教師に問われているのです。

### Q.3 ICT機器を使う前提での『授業のルーティン』をどのように実現しているのですか？

**A** 私の『授業のルーティン』はICT機器を使うのが前提となっており、実際チョークを使うことはほとんどなく、毎時間タブレット端末を使って『中学校社会科PowerPoint学習』という自作のサイトを活用して授業を行っています。サイトには地理・歴史・公民3分野の全授業ファイルが入っており、1つのファイルで1時間分の授業ができるようになっています。それぞれのファイルには授業で使う画像・動画・板書が入っており、授

業前に各自でタブレット端末にダウンロードをしておきます。反転学習に取り組んでいる現在は、先に板書を「ノート欄」に書き込んでいき、早く書き終えた生徒は授業で使うファイルを先に見ておくこともできます。そのファイルには重要語句などにリンクが貼られており、私が授業内容を説明する前でもリンク先にアクセスして知識

中学校社会科  
PowerPoint学習





▲リンク先から知識を深める様子

を深めることができ、板書で書かれていない内容を書き加えていくこともできます。授業で全員が板書を写し終わると、私が授業内容の説明を行い、生徒は授業内容を聞きながらノートに書き加えていくと、学習したこと全てが「研究ノート」に書かれたことになり、自宅での復習に使うことができます。また、『中学校社会科PowerPoint学習』のサイトのQRコードを事前に生徒に配布しているので、自宅にあるICT機器を使って、学習したことが全て書かれている「研究ノート」を見ながら、授業で使ったファイルを見て再度確認することができます。このように自宅で復習しやすい環境作りを心がけています。

## Q.4 ICT機器を使う『授業のルーティン』でどのような効果がありましたか？

**A** 以下5点で効果があったと考えています。

### 1. 「研究ノート」を使うアナログ学習、ICT機器を使うデジタル学習の併用が効果的である

GIGAスクール構想は大きく進み、これまでできなかった授業ができるようになりましたが、ICT機器を使ったら学力が上がるわけではありません。従来行っていたアナログ学習に加え、新しく可能になったデジタル学習を併用するハイブリッド的な学習にしていくことで、学習効果が上がっていきます。

### 2. 効率的に授業時間を使うことができ、教師の経験や力量に関係なく誰でも進められる

板書をする時間、資料集を開く時間など、授業内にはまだまだ改善の余地のある時間があります。ICT機器を使って時間短縮をすることが、生徒の学習活動の時間を確保し、教師が生徒を指導する時間に費やせます。これは教師の経験や力量ではなく、授業の効率化の視点で考えると誰でも進められるということです。

### 3. 学習方法の見通しが立てられるので、生徒が主体的に取り組み、教師の負担が軽減する

授業内容は毎時間違っても『授業のルーティン』を変えなければ、生徒は次に学習することが分かり、教師の

指示が不要になります。デジタルとの併用で「主体的な学び」「個別最適な学び」の実現が可能になります。

### 4. 発達障害の生徒には、学習支援ツールとして大きな効果を発揮する

ADHDやLDの生徒は、授業理解の前に指示が分からない場合が多くみられます。そのため、ICT機器を使う『授業のルーティン』を設けることで指示が単一化されます。このことで発達障害の生徒は見通しを持つことができるので学習がしやすくなり、学力向上が見込めます。

### 5. ICT機器を使うことで教材をシェアしやすくなり、業務改善が見込める

もともと『中学校社会科PowerPoint学習』は、私自身の授業改善が目的で作成していました。しかし、コロナ禍で従来の授業が難しくなった時、全国各地で困っている様子を見てサイトを公開しました。徐々にサイトを利用する教師や生徒が増え始め、教材のシェアの可能性を知りました。教材をシェアすることで一から作成する必要がなくなるので教師の業務改善につながります。

以上が、私の“「研究ノート」を活用した”新しい社会科の授業になります。全国各地の社会科教師の皆さんに少しでもお役に立てれば幸いです。

■秀学社は中学校の社会科教材を発行しております。教材についてご要望がございましたら、弊社HP「お問い合わせフォーム」まで、ぜひお知らせくださいませ。



秀学社webサイトからも  
ご覧いただけます。

<https://www.shugakusha.co.jp/>